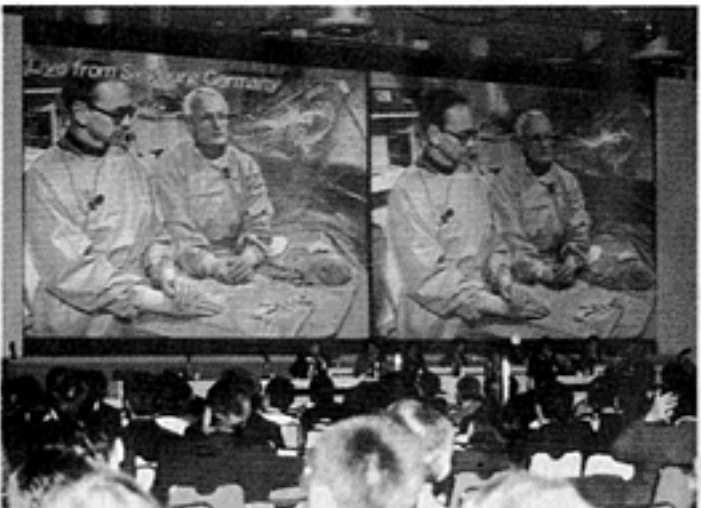


## 最新手術をライブで

2千人の専門医、豊橋に集う



豊橋日航ホテル—参加者を見る中継に生中継

アメリカ、ドイツ、スイス、カナダなどから約百人の医師や、国内の医師・技師ら関係者が参加。初日のウエルカムパーティーでは森澄前豊橋市医師会会長が祝辞を述べた。

このほか、モーニングカンファレンス、ランチョンセミナー、シンポジウムなどが行われ、ドイツの専門病院と同ハートセンターとを衛星同線で結び、鈴木院長らの手術現場と、ドイツでの手術現場が双方向で送信され、医師同士が問題点など説明し合った。

また、NTTのマイクロウェーブを使用した国内中継のライブデモでは同ハートセンターと赤十字病院の手術現場を会場に送信。大川育秀同センター副院長が、最新のハイパス手術を行い、手順、縫合テクニックなど披露。それについてのディスカッションやシンポ

ジウムなどが行われた。

四日目の六日の最終日にはアメリカの専門病院と同ハートセンターの双方向ライブデモ、国内のライブデモが行われる。同センターでは、四十人の重症患者の通称「バルーン治療」なども公開する。鈴木院長は、こうした機会が少しでも各ドクターの役に立ち、今後の心疾患治療技術の向上につながることを期待している。

(星野のりこ)

は名古屋第二赤十字病院(平山治雄院長)も加わり、過去最大規模となった。「アンターベンション(冠動脈疾患治療)の二十一世紀に向けた展望と、現在の最適な治療の追究」がテーマ。

国内外の専門医ら約二千人が参加し、心筋梗塞(こうそく)や狭心症など循環器系疾患の治療、技術向上を目的するライブデモが、ホテル日航豊橋で開かれている。六日まで。

「コンプレックス・コロナリー・インターベンション・カンファレンス(CCI)」で、今年で六回目。豊橋ハートセンター院長の鈴木孝彦・前国立豊橋東病院副院長が中心となり始まった。豊橋市で開かれるのは、平成九年以来、二回目。今回